

福祉は文化

施設内美術館 新光苑美術館

第2回 三栖右嗣のリアリズム



三栖右嗣「コスモス」油彩 F10号



三栖右嗣「木曾」油彩 F30号



三栖右嗣「信濃の春」油彩 変形120号

三栖右嗣は、1927(昭和2年)神奈川県に生まれた。東京藝術大学では安井曾太郎に師事した。国際的な絵画展の出品や、渡米しアンドリュー・ワイエスを訪ねるなど、精力的な活動が話題を集めた。埼玉県比企郡ときがわ町にアトリエを構え、国内外での美術館に絵画作品が収蔵されたほか、2010(平成22年)に没するまで数多くの受賞及び顕彰を受けた。

画風は現代リアリズムに基づく独自の描写手法にあり、精緻に描き出すリアリズム絵画に、情感と熱意を加える「三栖スタイル」の画風を確立した。秀逸な技術力と温かみのある視線が協調された作品の多くは、色褪せることなく、鑑賞者に力強い印象を与える。

新光苑美術館が所蔵する三栖作品は、三栖右嗣「信濃の春」(油彩 変形120号)など、人気を集める名作で、画布から放つ風景の「魂」とも表現できる力強さが我々の脳裏に響き続けている。「信濃の春」で描かれた枝垂れ桜は、その春を彩る色感のクライマックスを描き切った規模の大きい秀作。奥の雪山とのコントラストが、麗らかな春の陽気と穏やかな風を感じさせる。

春から秋に目を転じ、「コスモス」(油彩 F10号)では、薄紅と白の花びらと地に咲く奥の花々が丹念に描かれ、季節の中にある花々への愛しさが表現されている。その空間に映えるコスモスの存在感が、花を摘み取った人間の温和な表情をも想起させてくれる。

一方で、「木曾」(油彩 F30号)は信濃の宿場町にある土産屋を描いたものである。題材は、古来の風情を示す建物であり、かつての旅籠や商家が時代の移ろいとともに変化を遂げたことが想像できる。店の女性の座る姿と、黒色の暖簾、軒先の椅子が目に映り、どこもない郷愁や寂しさを感じさせる。リアリズムの繊細な描写の先には、風景それ自体が語り掛ける「詩」があるように思えてならない。

美術家 山下祐樹

蕎麦「藍」と渋沢栄一

蕎麦「藍」の店主、萩原清征さんの父萩原征雄さんは永井太田で西妻沼幼稚園を経営されていますが、そのこ



蕎麦 藍 外観

夏祭りで配布されて、うちわを原点として、明治35年頃より、料亭「泉州楼」の主人がうちわを配付したこと

うちわ祭は江戸時代に今のようなお祭りの原形が出来上がりました。江戸時代と言えは熊谷近辺では成田白と言われ

自宅に渋沢栄一から贈られた田久保稜風作の牡丹の絵や尾高惇忠の次男の次郎(刀江)の書などがあります。至誠の書も栄一から贈られたものつだそうです。どのような縁があったのでしょうか。



青淵 「至誠」



田久保稜風 「牡丹」



尾高刀江の書

昭和に渡る激動の時代を、時には時代に翻弄され、時には時代の波に乗り生きて来られた家族の歴史を垣間見せていただきました。蕎麦屋に「藍」と名づけられたのも納得です。最後にこの縁の話をもつ。茂雄さん命名の書に「友山」の名

熊谷うちわ祭の歴史物語



熊谷市鎌倉町に鎮座する愛宕八坂神社の祭礼である。八坂神社は、文禄年間(1592)に京都八坂神社を勧請し、後に熊谷宿の愛宕神社に合祀された。

熊谷の夏祭典の起源を示す最初の記録は、江戸中期の寛延3年(1750)に、当時各寺社が催していた祭礼を宿場内統の祭りとする上申書である。

天保年間(1830)は祭りの中興の時代といわれ、重さ二〇〇貫(975キロ)の神輿が新調され、祭りの原点ともいえる全町合同の神輿渡御が開

あると語り継がれている。東京での修行中に、うちわが飛び交うことで知られていた「天王祭」の影響を受けた主人は、老舗「伊場仙」から渋うちわを買い入れ、熊谷の祭礼で配り始めたことが発端となつて



礼運管を行っている。熊谷木遣唄は、鶯が土木作業を行う際の威勢付けの意味合いが強かったが、冠婚葬祭での祈りや願いを込めた民俗芸能として庶民の中で育まれた。江戸の文化を今に伝える無形の文化遺産として親しまれている。(Y.Y)

熊谷鳶組合熊谷木遣

熊谷うちわ祭を彩る熊谷木遣は、文政年間(1818~29)、江戸の木遣師から熊谷宿場の意に伝えられ、現代まで引き継がれている。威勢の良い掛け声や演技は、当時の鶯がその役割を果たしていた町火消を思い起こさせる。今日では、大正2年(1913)に発足した熊谷鳶組合を中心として熊谷木遣保存会が活動し、「木遣り」「梯子乗り」「漣振り」などの伝統芸能を継承している。これらは熊谷市の無形民俗文化財に指定されている。熊谷うちわ祭では、最終日の年番送りにおける木遣唄奉納や、出初行事で行われる梯子乗りの技術を高め、人々を魅了し続けている。

熊谷祇園会

2年前、令和の始まりとともに創立60周年を迎えた「熊谷祇園会」は「熊谷うちわ祭大奉仕」を目的とした団体で、祭りに参加する全12町区のうち、第壹本町区、第貳本町区、銀座区、弥生町区、荒川区、鎌倉区、本石区、伊勢町区、桜町区の9支部で構成され、会員は18歳以上、約500名が所属する。



御神輿を行宮から本宮にお返しする還御祭(愛宕八坂神社前)



令和元年5月1日 熊谷祇園会創立60周年 天皇陛下御即位奉祝巡行

祭期間中のお囃子、山車屋台の巡行参画、最終日深夜に執り行われる還御祭において会員が勇壮に神輿を担ぐなど、うちわ祭の大きな原動力になっている。「お囃子会」の子ども達へのお囃子指導のほか、さくらラウンジでは参加ラウンジに花を添えている。

会長の木村高広さんは「当会をはじめ、さまざまな活動を通して、世代や町区を超えた人との繋がりが持てる。これからも熊谷うちわ祭の伝統を重んじ、発展のために全力で邁進し、地域社会に貢献していきたい」と話す。(R)

セレモニーホール ゆうえん 亡き人に心をこめて JAくまがや指定

立正幼稚園は令和元年度より認定こども園立正幼稚園となりました Little Ricky Risho Kindergarten

吉田・櫻井税理士法人 税理士 吉田 嘉高 税理士 吉田 貴之 税理士 櫻井 富美子

くぼじまグループ くぼじまクリニック KUBOJIMA CLINIC 理事長・院長 大島 譲二

熊谷中央不動産株式会社 熊谷の売買物件、不動産をお探しなら住まいの情報サービスステーション

株式会社 平松 代表取締役 日向研一郎 歴史が育む無限の可能性...地域密着・食品卸売業

熊谷の風土と歴史の香りをお届けします 小麦の語り 近江屋酒店

リサイクルの亀井産業グループ 健康生活の実現 安全かつ無害